

**中学校 保健体育科（保健分野）**  
**単元名 「応急手当の意義と実際」（第2学年）**

**1 単元の目標**

- (1) 応急手当の意義と実際について理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 応急手当の意義と実際に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 応急手当の意義と実際について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

**2 単元の評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 傷害が発生した際に、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることや、応急手当には止血や患部の保護や固定があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して、包帯法や止血法としての直接圧迫止血法ができる。 ② 心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当には、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法があり、その方法について、理解したことを言ったり書き出したりしているとともに、実習を通して、胸骨圧迫やAED使用などの心肺蘇生法ができる。	① 応急手当の意義と実際について、それに関わる事柄や情報などを整理して課題を発見している。 ② 傷害に応じた適切な応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態に合わせて活用して、傷害の悪化を防止する方法を見いだしている。	① 応急手当の意義と実際について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。

**3 指導と評価の計画（3時間扱い 本時2/3）**

	主な学習内容・学習活動	知	思	態	評価方法
1	○応急手当の意義や手順について、課題を見つけて解決に向けた話し合いをする。 ○応急手当の基本を確認し、患部の保護や固定、止血の行い方を教科書や視聴覚教材を用いて整理し、実習を行う。	①	①		観察 タブレット
②	○ペットボトルを用いて、胸骨圧迫の実習を行う。 ○心肺蘇生法の実習を班ごとに行う。（ダミー人形・胸骨圧迫練習教材） ○他者からのアドバイスを参考に、傷害の悪化を防止するために、自分が重点的に実習で取り組む内容を選択する。		②		観察 タブレット
3	○前時の実習を通して、明らかになった課題を全体で共有し、実習内容を選択する。 ○傷害の事例に応じて、傷害の発生した場面やけがの状況に適した応急手当の方法・手順や、危険を予測し、回避するための方法を考え、班で話し合いながら実習する。 ○単元を通して学んだことを今後の生活にどのように生かしていくかをワークシートにまとめる。		②	①	観察 タブレット

※主体的に学習に取り組む態度の評価については、単元全体を通して総括することとした。



<p>まとめ</p>	<p>4 学習を振り返る。</p> <p>○傷害の悪化を防止するために、次時に自分が重点的に実習で取り組む内容を選択し、その理由などをタブレットにまとめる。</p> <p>○全体で交流する。</p>	<p>個人</p>	<p>○ホワイトボードを用いて、心肺蘇生法の手順チャートに、自分の課題だと思ふ部分にマグネットで示すよう促し、全体の課題を共有し、次時への学習へつなげる。</p>
		<p>全体</p>	

# 心肺蘇生法チェックリスト

**手の置き方**



①片ほうの手のひらのつけ根を圧迫する場所にあてる。  
 ②その上にもう片ほうの手のひらを重ね、指を組む。  
 ★手のひら全体ではなく、手のひらのつけ根だけに力が加わるようにするため、指を組むとよい。

**圧迫のしかた**

**正面**



**横**

肘を垂直に伸ばす  
組んだ手を見る



	反応の確認や協力者の要請はOK？
	呼吸の確認は胸と腹でできている？
	胸骨圧迫で押す場所はOK？
	胸骨圧迫時の肘は曲げずに垂直か？
	胸骨圧迫で押す強さは適切か？
	胸骨圧迫で押す速さは適切か？
	胸骨圧迫で絶え間なく押せている？

